報告

「市民が進める温暖化防止～クライメート・アクション・ナウ！～」キャンペーン

パリで決めよう！ COP21に向けた連続シンポジウム

温暖化防止ネットワーク関西、大阪府地球温暖化防止活動連絡調整会議、大阪府地球温暖化防止活動推進センター、地球環境市民会議（CASA）の主催、気候ネットワーク、大阪府民環境会議（OPEN）、サークルおてんとさん、わかやま環境ネットワーク、奈良ストップ温暖化の会、奈良県地球温暖化防止活動推進センター、CAN－Japanの共催で連続シンポジウムが開催されました。講演内容はネットワーク関西のホームページhttp://www.bnet.jp/casa/COP15_Network_kansai/を参照してください。

第１回「STOP温暖化、国際交渉の基礎を学ぶ」10月３日（土）13：30～16：30

OMMビル201会議室

条約・議定書交渉の基礎知識

早川 光俊（CASA専務理事）

1827年に大気の温室効果が理論的に予測されたことから始まり、2014年のCOP20までスケールの大きな講演でした。特に京都議定書が採択されたときの臨場感は圧巻でした。

COP21の重要性（COP21の論点）

小西 雅子さん（WWFジャパン気候変動・エネルギープロジェクトリーダー）

各国の約束草案が続々と提出されている状況でしたが、分かり易いスライドと軽快な解説で理解を深めることができました。京都議定書とコペンハーゲンの反省をふまえ、トラウマを乗り越えてパリで合意しようと努力が重ねられていることがよく分かりました。

公平性（fair）と衡平性（equitable）を確保しつつ、これからずっと継続して温暖化対策の取り組みが続く枠組みづくり、そして各国の取り組みが進歩（progression）していく制度づくりがCOP21の肝だとのことでした。

第２回「STOP温暖化、パリで決めよう」

11月７日（土）13：30～16：30

マイドーム大阪第３会議室

COP21に向けた日本の方針

水越 英明さん（外務省国際協力局参事官）

温室効果ガス排出削減目標である約束草案の提出状況と各国の目標値の紹介がありました。国際エネルギー機関（IEA）は各国の削減目標を足し合わせても、2100年には産業革命以前からの気温上昇が

2.7℃に達する見込みとしているとのことで、「日本がCOP21で目指す成果は、①全ての国が参加する公平かつ実効的な枠組み、②先進国・途上国の二分論ではなく各国の能力・事情に応じて貢献、③各国の目標の実施が有効に担保され、継続的に削減に向けた野心を向上させる仕組みの構築、④各国が共同で実施する市場メカニズムを通じた国際協力の実現である。」と話されました。

COP21で日本は何をすべきか

山岸 尚之さん（WWFジャパン気候変動・エネルギーグループリーダー）

国連条約事務局の約束草案のまとめより、2℃未満に必要な排出削減量に対するギャップの紹介があり、日本の約束草案は①基準年操作によるまやかし、②長期目標の80％削減と整合していない、③再エネ目標が低すぎ石炭が多すぎる、という問題を指摘されました。日本が貢献するべきポイントは①5年ごとの見直しの仕組みの強化、②差異化でのバランスのとれたポジション、③国内削減以外の分野での貢献、④国内対策の強化への連携、とのことでした。

日本の削減可能性についての検討

明日香 壽川さん（東北大学教授）

「日本の温暖化対策数値目標は、先に『原発再稼働・石炭火力維持・省エネと再生エネは少しだけ』を決めて、その後付けで決めたものである。

原発がなくても2℃目標達成コストは上がらず、電気代やGDPなどは大差がない。日本の省エネポテンシャルについて、2030年の素材系4業種の省エネ対策見込み量は1％程度であるが、実際には現在の省エネ法ベンチマークを2030年に遵守するだけで10％程度の省エネは可能である。」と話されました。

第3回「COP21報告会～COP21の成果と課題」2016年1月23日（土）13：30～16：30

マイドーム大阪第3会議室

COP21で何が決まったか

高村 ゆかりさん（名古屋大学大学院環境学研究科 教授）

パリ協定として合意された内容を、「脱炭素化に向かう長期の目標・ビジョンをより明確に設定した。目標は2℃を十分下回る水準とし、1.5℃に抑制するよう努力する。そのためできるだけ速やかに排出量を頭打ちとし今世紀後半に温室効果ガスの人為的排出量を実質ゼロとする。各国は、それまでの目標を超え、最も高い水準の目標を5年ごとに提出する。」とまとめられ、合意できた背景を①COP21を逃すと合意はさらに遅れる危機感、②フランスの采配、③米国の「作り込み」、④気候変動に関わる経済的・社会的条件の変化と分析されました。合意できた感動が伝わる講演でした。

COP21でのNGOの主張と活動

平田 仁子さん（CAN-Japan代表、気候ネットワーク理事）

CAN（Climate Action Network）のCOP21への提言や活動の結果、「平和的な革命」と評価される会議の成果の紹介後、世界から見ると目標が低く、行動が遅いとされる日本に求められる対応を、①法整備、②エネルギー部門の大転換、③石炭火力発電計画の中止、④26％削減目標の引き上げ、と話されました。今回初めて日本に化石賞が贈られませんでしたが、世界から日本への関心の低下と捉えるべきだとのことでした。

山田 直樹（CASAボランティア）